

大学の世界展開力強化事業 取組概要 政策研究大学院大学

【構想の名称】(タイプA-1 CAMPUS Asia Pilot Program)

北東アジア地域における政策研究コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

求められるグローバル人材像として科学的合理性に裏付けられた現実的課題解決能力を涵養したうえで、こうした判断基準と信頼を共有する者同士の強固な人的ネットワークの形成を促す。これにより、日中韓の社会的な中核機関の組織的な政策立案・管理運営能力を高度化し、アジアと世界の知的ネットワークにおけるハブを形成する。

【構想の概要】

韓国KDISスクールと清華大学公共管理学院との間で、大学院レベルのダブルディグリーや単位互換制度を利用した留学生交流を行う。本学を含めて3大学ともに、政府機関・民間企業の中核的なミッドキャリア職員を学生として受け入れており、彼らに対して社会科学を中心とした国際水準の公共政策教育を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈KDISサマープログラムに参加した本学の学生〉

○ 指導体制の強化

金融分野を専門とする専任教員を採用し、教育と論文指導体制を充実させた。

○ 学生交流の促進のためのサマー・プログラム・短期研修の開催

本学の日本人学生を含め、本コンソーシアム参加3大学の学生の多くは政府機関等から出向してきているミッドキャリア職員であり、在籍中の時間的余裕が少ない。こうした期間制約の厳しい学生が参加しやすい行事として、キャンパス・アジアの枠組みを最大限に活用し、夏学期のサマープログラム(1ヶ月間)や3日間程度の短期研修、特別セミナーなどを企画・開催した。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈清華大での短期研修やKDIS特別講義の様子〉



○ GRIPS-KDISワークショップをGRIPSで開催(平成24年8月21日～22日)

KDISの教授と学生を迎え、ワークショップを開催(日:25名、韓20名)
企業訪問(トヨタ・岡本硝子)、本学教員による特別講義2コマ、学生交流会を開催

○ KDISサマープログラムに本学学生を派遣(平成24年8月7日～9月7日)

KDISと韓国中央公務員教育院が共催した「グローバル政府職員セミナー」、
現役のOECD職員による開発政策の集中セミナーなどに出席

○ 清華大学での短期研修に本学学生を派遣(平成24年9月26日～9月29日)

清華大学教員による特別講義「中国のNGOの取組み」、「中国の5ヶ年計画」を受講、
清華大学の通常授業を聴講したほか、中国伝統行事を祝う交流会(学生主催)に参加

○ KDIS特別講義をGRIPSで開催(平成24年10月29日)

KDISのNam研究科長による「開発コンセンサス」に関する特別講義、
Jung教授による大学紹介

○ 清華大学特別講義をGRIPSで開催(平成25年1月22日)

清華大学の魏星助教授による「中国の今後の経済発展政策」に関する特別講義、
孟波教授による大学紹介

○ ジョイント・セミナーをKDISで開催(平成25年3月13日～16日)

両学のPh.D学生5名が自身の研究について発表をするPh.D.セミナー、本学教員による特別講義、KDISの通常授業の聴講、
KDISの学生と親睦を深める交流会などを開催

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

KDISサマープログラム及びKDIS・清華大学で開催された短期研修へ派遣

○ 外国人留学生の受入れ

ダブルディグリーによる受入れ及び本学で開催したワークショップによる受入れ

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0, K0	C0, K23	C10, K10	C10, K10	C10, K10
中国(C)での受入	J7, K1	J11, K3	J10, K5	J10, K5	J10, K5
韓国(K)での受入	J9, C0	J20, C0	J10, C5	J10, C5	J10, C5

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

〈日中韓公務員とのグループ討論の様子〉



■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ キャンパス・アジアの事業方針に沿った学則の改正

本事業における協定校からの受入れ学生に対する奨学金に係る運用規定を作成
本学学生が留学し、帰国した際の単位互換に対応するため、学則の単位互換規定を修正

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページやメディア媒体を利用したプロモーション活動

キャンパス・アジアの周知と、将来キャンパス・アジアの候補生となりうる学生母数の増加を
目的に、新たに「参加者の声」を盛り込んだパンフレットを発行した。また、『国際開発ジャーナル』や『自治体国際化フォーラム』、
進研アド『大学院へ行こう』などの雑誌やウェブページにも、参加学生のインタビュー記事などを掲載し、学生の出向元機関も含め
幅広く本事業のねらいや成果が伝わるようなプロモーション活動を行った。さらに、ホームページの随時更新を容易化した。

○ 外務省「日中韓若手公務員交流プログラム」合同ディスカッション・フォーラム(平成25年2月25日)

日中韓の若手公務員15名と本学学生15名が「日中韓3カ国協力の今後」及び「キャンパス・アジア・プログラムの重要性」などの
課題についてグループ討論した。